



第6回目となります青枢通信は、森博美さんです。

ご存知のように森さんは青枢会の理事であり、作品はいつもインスタレーションで巨大な壁面を覆い尽くす迫力あるものです。また、ここ数年はCGによる制作ですが、その前は樹木などを使ったオブジェであったり金属の廃材を利用したものであったりと、バリエーション豊かな青枢の現代美術作家であります。

それに加えて、青枢会への作家トレーダーとしても、大きな貢献をされていて、会員の原広信さんや理事の斎藤敏文さん、そして私（米谷）も森さんの紹介で青枢に参加するようになりました。

今回、森さんに取材をお願いしたところ、遠方である事もあり、森さんの方から電子メールによるやり取りで質疑応答しましょうという、有り難い申し出をいただいて、記事にさせていただきました。これもまた、モダンな作風の森さんならではの事かもしれません。

そんな取材から、森さんの創作の秘密に少しでも迫れば良いなと思います。



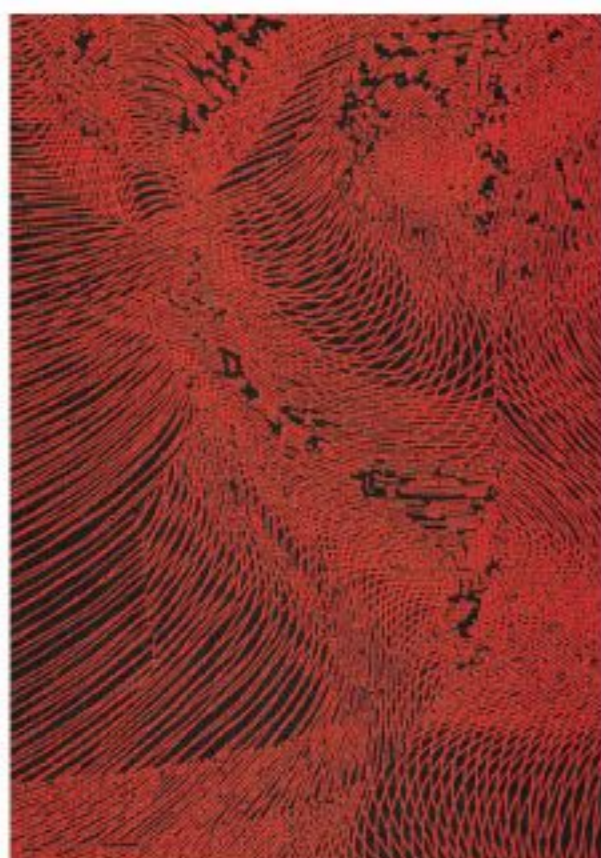
現在は高崎健康福祉大学で勤められ、多摩美術大学校友会理事・藤岡市民展審査委員と多方面で活躍されています。スーツ姿もさすがが決まっていますね。

壁一面に配置されたインスタレーション作品（青枢展）。厚みのあるパネルに側面まで美しく処理された、ハイレベルなプレゼンテーションです。

森さんは学生時代、グラフィックデザイン専攻だったそうですが、なぜか絵画科の助手をやることになり、そこで教授達の制作をまの当たりにした事から絵画・現代美術に興味を持ちはじめたそうです。その頃、仲間達と共同でアトリエを借りて制作に集中。哲学・人生・芸術を語り合った日々を懐かしく回想してくれました。そんな時を経て、新制作の鶴見雅夫氏の勧めから新制作展に出品。これが出品活動の始まりのようです。

森さんの画歴を見せていただくと、グラフィックから絵画制作に移行された事が反映している事がよく分ります。日仏現代美術展や神奈川県展等（他多数）で受賞されている一方、各地で公募されたシンボルマークなどでも数多く受賞・採用されていて、マルチな才能を感じます。あ、そういえば青枢でも2度大賞を受賞されていましたね。（デザイン専攻から絵画を志すようになったのは、私も同じなので色々共感出来る部分が多くあります。森さんほど多くの受賞歴はないですが…笑）

その後、結婚されるのと時を同じくして、東京デザイナー学院（東デ）に勤められ、クラフトデザイン学科長などを歴任されています。



東デではヨーロッパ研修などのチャンスもあり、また「森博組」なる制作集団を持ち、巨大オブジェなどを学生達と制作したりなど、活発な活動をされ、そんな事が今の制作に大きく影響されているようです。そこで同じ時期に東デに入職された原広信さんと行動を共にした事が、一緒に青枢に入会する事に繋がっていきます。

またその後に、東デで講師を勤める事になった斎藤敏文さんと私が青枢に誘われるのも、嬉しい偶然の出会いでした。

左・1994年個展DMより
右・1980年頃のドローイング作品。ロットリング（テクニカルペン）を使って線による作品（50号から150号などの大作）を描かれていたそうで、その緻密さと根気が今の仕事に繋がっています。ロットリングは詰まりやすく気難しい道具で、綺麗に仕上げるのはかなりの根気を要します。27歳頃の作品。

森さんと青枢会の出会いは、偶然に青枢展を観たところからだそうで、その時に元会長の郷原さんと話をした事が出品に繋がったのだとか。会場の贅沢な使い方にも驚かれたそうです（14回展頃）。

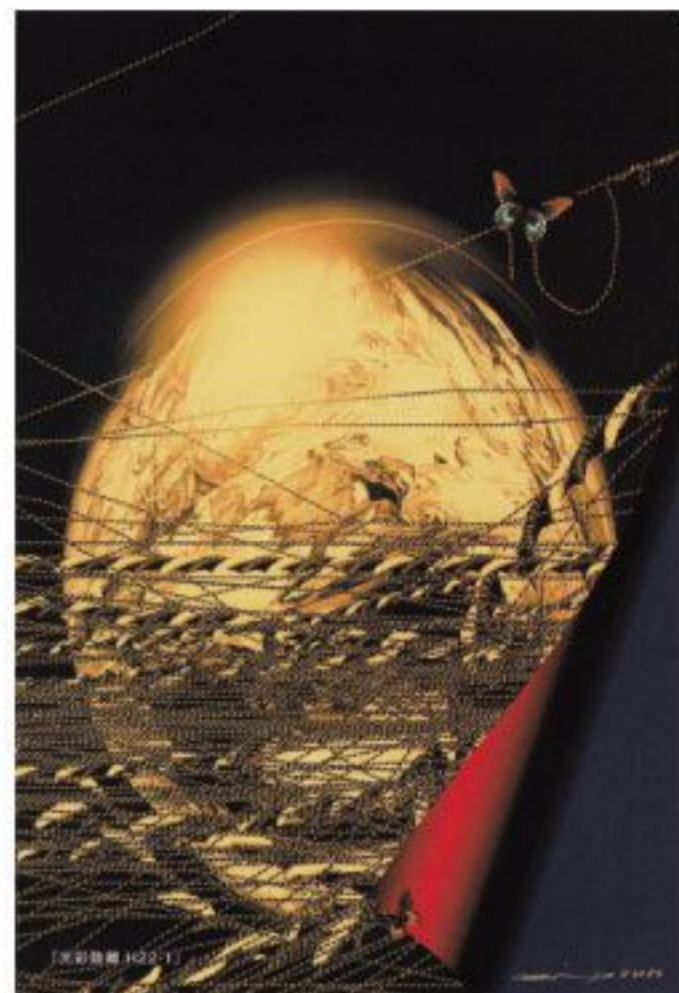
ところで森さんと言えばスポーツマン、特に野球・ソフトボールというのが印象にあります。ご存じない方も多いかもしれませんが、ソフトボール歴は30年という超ベテラン現役選手なんです。今もチームで活躍され、自転車通勤は往復40キロ80分を15年も続けていらっしゃいます（すごい）。また、お嬢さんは実業団駅伝と3000障害で全国優勝、北京オリンピック候補にまでなっているらしい、相当なスポーツファミリーですね。

（そういえば斎藤さんと私が青枢展に誘われたのは、東デの野球チームと一緒に練習している時でした。）

他にも居合道2段・囲碁初段・般若心経読経歴50年、ついでに披露しちゃうと瞑想歴40年、自身で散髪30年、毎朝奥様と握手をして出勤される事35年余り（え、不思議？ですが）、などなど…すごいコダワリの習性？ですが、作品にもそのあたりの影響が見えてきて、興味深いです。作家というのは、大なるオタクであるからこそ、続けられるものなのかもしれませんね。



東デ教員時代（38歳）授業終了時の集合写真。この頃は青枢展見学に学生を400名余り引率されていたそうです。



2010年・京王プラザホテル個展DMより。デザインセンスが光るCGアートです。画家が見ても、デザイナーが見ても上手いなと感じる巧みな構成はさすがです。

左下・ここ数年の作品のひとつ。宇宙を連想させる作品群とインスタレーションは、青枢展に欠かせない存在感ですね。森さんの作品は、単体でも美しいのですが、その展示手法も重要なポイントになっています。私が引率した学生達にも好評で、その迫力ゆえ強い印象が残っているようです。



森さんは佐賀県・鳥栖（とす）の出身、九州男児です。（九州出身は今まで青枢会に意外と多く居られて、私もその一人です。）端正な顔立ちと渋い声で、東デ時代にも式典などでは司会進行を勤められる事も多かった記憶がありますし、青枢会でも自然と同じポジションになるのは当然の事だなと感じています。

また、作品がモダンでハイレベル、近年のCG全盛の学生達には良いお手本として紹介出来るので、私も学生を青枢展見学させる時にはちゃっかり解説しちゃってます（笑）

これから益々の変化・進化する作品群に期待いたします。

編

集

後

記

第6回目となります青枢通信。ようやく編集に慣れて来た感じです。とはいえ、元々文章力もなく、国語は苦手だったので試行錯誤の連続で、拙い文章ですが、よろしくお付き合い下さい。

今後、同じスタイルでの発行にとどまらず、複数の会員さんの特集したり、展覧会や絵に関する情報なども交えて紙面を作る事なども考えています。会員の展覧会・その他制作の情報などあれば、是非お知らせ下さい。

有楽町・交通会館の春展も終わり、いよいよ本展にむけて制作に入られる事と思います。

皆さんの力作・傑作に出会える日を楽しみにしています。